

あゆむ

H30年度認知症の人とあゆむ会講演会・介護事例研究発表会

認知症の人とあゆむ会講演会が11月17日にアミーガはまゆりにて開催されました。はじめに、釜石厚生病院植松美行院長より、「老年期精神障害と認知症」というテーマでご講演頂きました。あまり聞きなれない「老年期精神障害」とは、うつ・統合失調症・認知症・神経症などが含まれる総称で、診断は専門医でなければ難しいということでした。うつなのか認知症なのか悩むよりも早めに専門医を受診すること。そして、その症状にあった薬を服用していくことが重要であることをわかりやすくお話して下さいました。

第1部の講演に続き、第2部は認知症介護事例研究発表として市内4事業所より発表頂きました。

○グループホームハイムはまゆり 鈴木明子さん

「いつまでもわたしらしくいたい」という本人の気持ちに寄り添うために、本人の生活歴や性格等をひもとき、関わり方を変えたことにより本人らしく生活できるようになったケースを発表。

○老人保健施設フレールはまゆり 佐藤奈菜さん

入所者の個別化を大切に、一人ひとりを掘り下げて良く知ること、利用者にあったサービスを提供できたケースを発表。

○フジクラ訪問看護リハビリステーション 三浦禎絵さん

認知症独居の方の薬の飲み忘れを解決するために、主治医やケアマネジャー、ヘルパー等関係機関と連携を図ったケースについて発表。

○いきいき指定居宅介護支援センター 神田由香利さん

身寄りのない認知症独居の方に対してケアマネジャーが関係機関と連携し、本人の想いに寄り添って支援したケースについて発表。

どの事業所も、認知症の方に寄り添い、認知症当事者と一緒に解決していく姿勢が見られとても勉強になった発表でした。



ミニ講座

ショートスティの利用について

1. ショートスティとは

要介護の高齢者が数日～1週間位施設に入所できるサービスです。最長30日となります。

2. 利用できる人

要介護認定を受けた方が利用できます。ケアマネジャーが作成したケアプランが必要となります。

3. メリット

介護者の負担が軽減されることです。介護者が休養を取り、介護によるストレスを解消することは、在宅生活を続けるためには有効です。将来施設入所を検討している場合は、施設での介護を体験できる機会にもなります。

4. デメリット

希望者が多く、予約が取りづらいという難点があります。また、入所によって環境が変わるため、認知症の症状が強く現れる場合があります。

5. 費用や選び方

ショートスティの費用は、介護度、施設の種類、部屋のタイプ、滞在日数などで決まります。

6. ショートスティを選択肢に

ショートスティを利用することに罪悪感を持たれる方もいるかもしれません。介護者が無理をして身体を壊したら元も子もありません。1人で頑張り過ぎず、時にはプロに任せ、上手に利用し休養しましょう。

☆シリーズ☆ 認知症最新ニュース

【VR認知症プロジェクト -認知症を体験する-】

認知症になると想いを表に出しづらくなり、代わりに起こす行動が「周囲には理解できないもの」と映ってしまうことが多くあります。表面的な行動は「徘徊」「帰宅願望」「入浴拒否」「暴力・暴言」などの様々な言葉で表され、「認知症だから起こすもの」と思われがちです。しかし「認知症だから」ではなく、混乱する環境においては誰もが通常と違う行動を起こすものと理解し、始まったのがVR認知症プロジェクトです。認知症ではない人が、バーチャルリアリティ（VR）の技術を活用し、認知症の中核症状を体験するものです。認知症の症状は「単なる物忘れ」だけでは無い事を理解する機会になる事でしょう。是非体験してみたいものですね。



活 動 予 定

★ つどい定例会 (対象：正会員・一般介護者)

・1月16日(水) 13:30～15:00

※会場：小佐野コミュニティ3階

★ あゆむカフェ (対象：正会員)

・2月20日(水) 13:30～15:00

・3月20日(水) 13:30～15:00